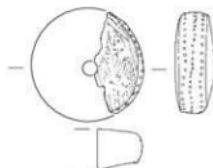


千葉県八千代市

大山遺跡 d 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成30年度

神正株式会社
八千代市教育委員会

例　言

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成30年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成に伴うもので、事業者である神正株式会社の委託を受けて実施した。
2. 調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査期間	平成30年6月5日～6月18日	面積323.2／2959.06 m ²	(担当：宮下聰史)
本調査期間	平成30年9月13日～10月12日	面積172 m ²	(担当：宮下)
本整理期間	平成31年1月7日～3月29日	(担当：轟　直行)	
3. 写真・図面等の調査資料および出土資料は八千代市教育委員会が保管している。
4. 本書の編集・執筆は轟が行なった。
5. 報告書の作成にあたっては峰村　篤氏からご支援を賜った。厚く御礼申し上げる。

凡　例

1. 本書における遺構実測図の用例
 - (1)図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。
 - (2)遺構の縮尺率は以下のとおりである。
堅穴建物跡 1/80, 炉跡セクション 1/40
 - (3)堅穴建物跡で検出された焼土をセクション図で示しているが、この範囲はあくまで検出されたおおよその層位を示したものであり、厳密なものではない。
2. 本書における遺物実測図の用例
 - (1)縮尺率は次のとおりである。土器実測図 1/4, 土器拓影図・土製品 1/3
 - (2)実測した土器については遺存範囲を表現した。
 - (3)口径・胴部最大径・底径の寸法を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。
 - (4)胎土の観察にはデジタルマイクロスコープ(秀マイクロンプロ)を使用し、倍率150倍で観察を行なった。

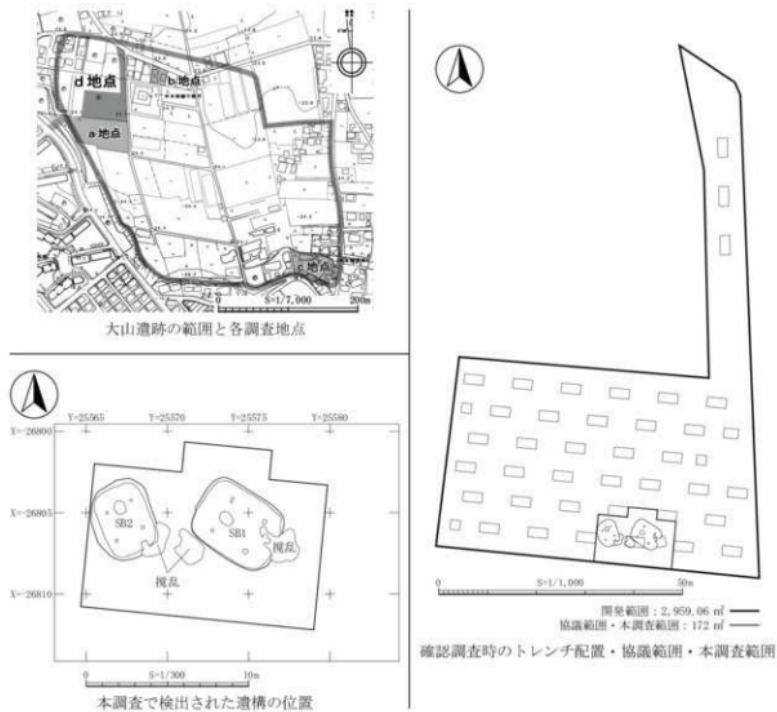
本　文　目　次

- 例　言
- 凡　例
- 本文目次
- 検出された遺構と遺物
- 報告書抄録

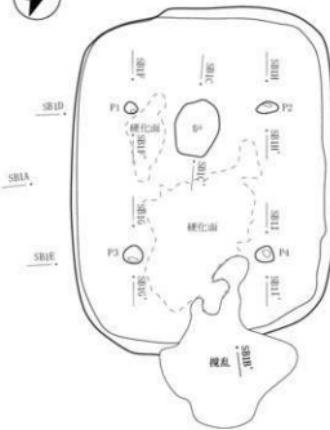
検出された遺構と遺物

1号竪穴建物跡

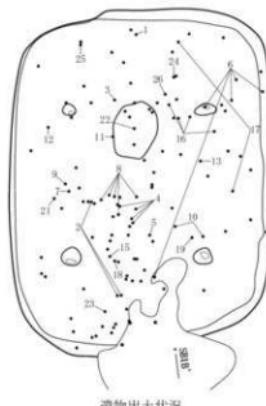
時期：弥生時代後期 検出面：ソフトローム層 平面形態：胴張角丸長方形 規模：長軸長 5.67m 短軸長 4.28m 深さ 0.54m 構造：炉が 1 基、ピットが 4 基検出された。ピットはいずれも柱穴と考えられる。炉の埋土 2 層では焼土層が確認された。出土遺物点数：縄文土器 117 点、弥生土器 263 点、弥生時代土製品 1 点 出土遺物重量：縄文土器 969g、弥生土器 1302g、弥生時代土製品 40g 遺物出土状況：本遺構から出土した遺物のうち 133 点を測量で取り上げた。その結果、床面上から出土した遺物はやや少なく、3 層から出土した遺物はやや多い傾向を見出すことができた。第 3 図 5 は 2 号竪穴建物跡出土の土器と遺構間接合した。本遺構から出土した破片は埋土上層にあたる 3 層付近から出土し、2 号竪穴建物跡は埋土中層から出土したことから、両遺構の埋土が堆積する過程で第 3 図 5 は投棄されたと考えられる。



第 1 図 大山遺跡の範囲と各調査地点、確認調査・本調査全体図



5m



遺物出土状況



1号竖穴建物跡伊跡土層説明

- 1層 塙褐色土。しまりややあり。粘性あり。焼土層じる。
2層 非褐色土。しまりあり。燒土層。

SRID

23.90m SRID'



SRIF 23.90m SRIF'



No.1 出土状況（東から）

SRIG 23.90m SRIG'



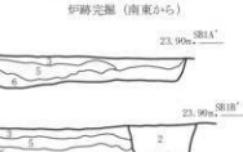
完掘（南西から）

SRIH 23.90m SRIH'



炉跡完掘（南東から）

SRII 23.90m SRII'



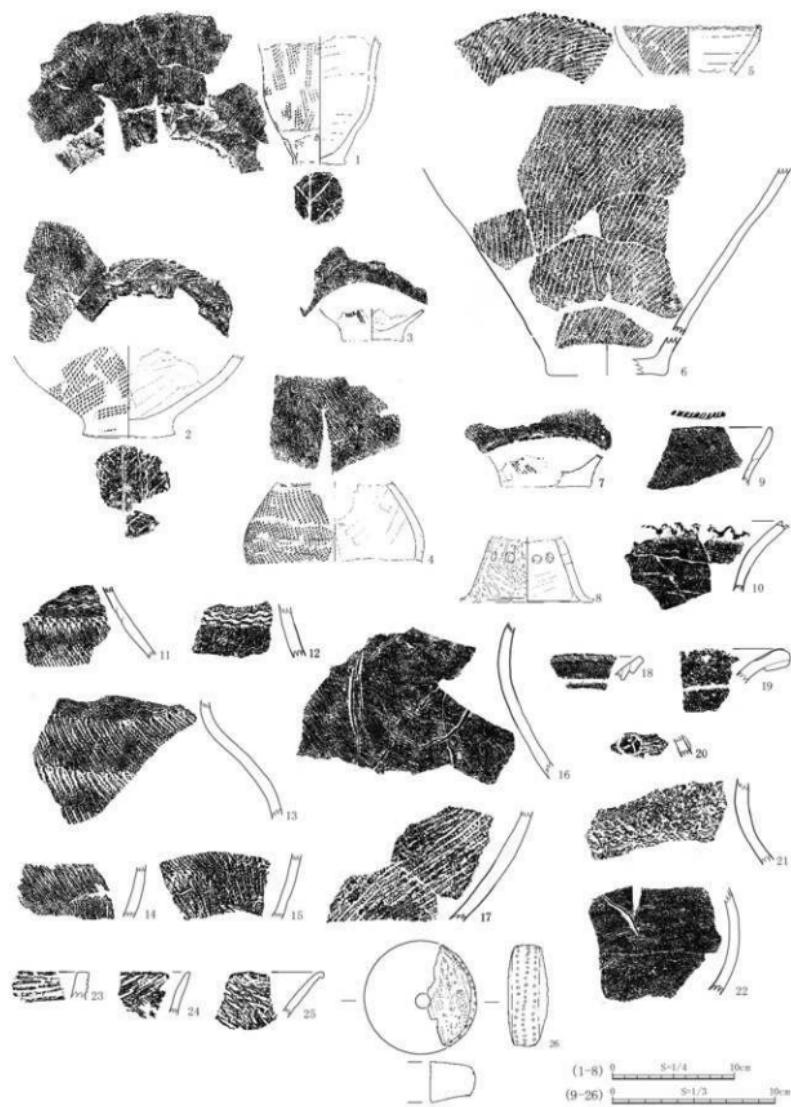
炉跡完掘（南東から）

1号竖穴建物跡土層説明

- 1層 調査調査時のトレンチ埋め戻し土
- 2層 焼且土
- 3層 塙褐色土。しまりあり。粘性あまりなし。ローム層じる。1m以下の焼土層。
- 4層 黒褐色土。しまりあり。粘性なし。1~2mm程の炭化粒子・焼土を含む。
- 5層 黒~深褐色土。しまりあり。粘性ややあり。ローム層わざわざに混じる。焼土層・炭化物層じる。
- 6層 明確褐色土。3~5層にくらべてしまりやや弱い。粘性あり。ローム土多く含む。2mm程の焼土層じる。
- 7層 明確褐色土。しまりややよりやや弱い。ローム層多く含む。焼土層わざわざに含む。
- 8層 焼褐色土。しまりあり。粘性あり。ハーフローム層じる。焼土層じる。
- 9層 黄褐色土。しまりあり。粘性あり。ハーフローム層。



第2図 1号竖穴建物跡（1）



第3図 1号竪穴建物跡（2）



第4図 1号竪穴建物跡（3）

遺物：第3図8は弥生時代終末期～古墳時代前期前半の高坏の脚部であるため、遺跡内に当該期の遺構が存在することを示唆していると考えられる。第3図12・19～22は南関東系の土とされる。胎土に着目すると、第3図6の胎土には大粒の石英が含まれており、胎土の特徴は明らかに他の土器と異なる。また、第3図19も胎土にシャモットが含まれており、他の土器とは異なる特徴が認められる。その他には縄文時代前期後半の黒浜式土器の破片、縄文時代前期末～中期初頭に位置づけられる土器片が出土した。

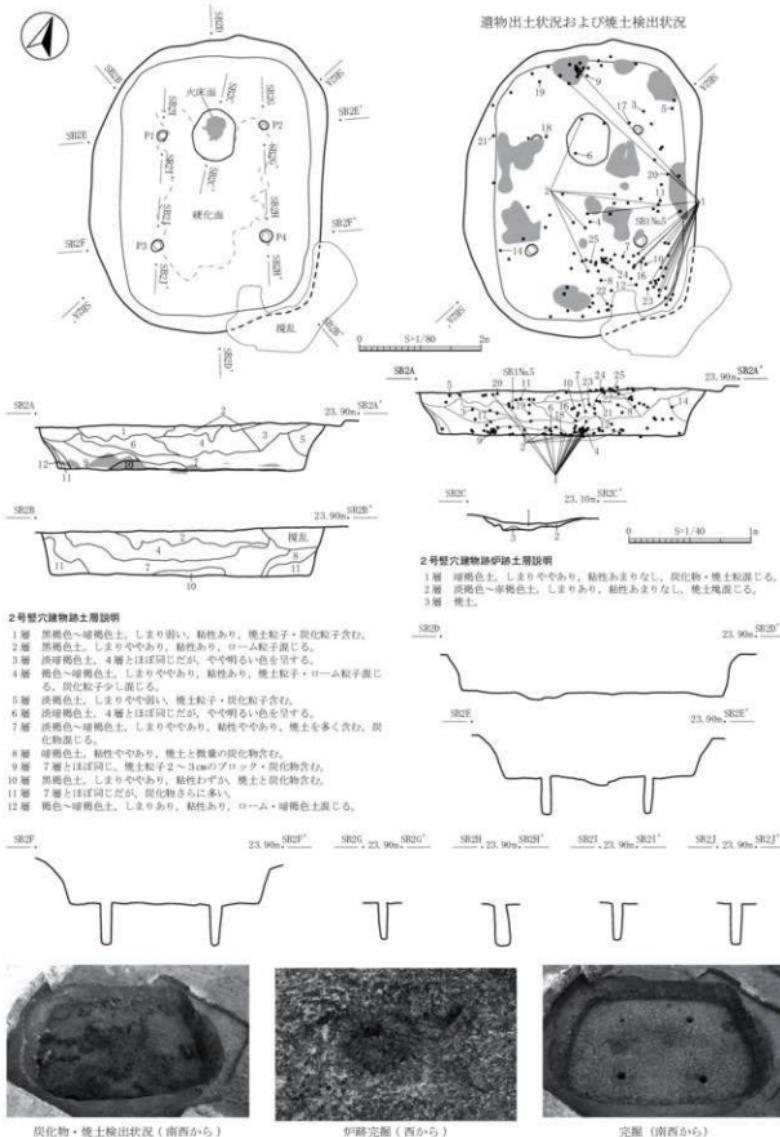
2号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 **検出面**：ソフトローム層 **平面形態**：胴張角丸長方形 **規模**：長軸長4.80m 短軸長3.81m 深さ0.77m **構造**：炉が1基、ピットが4基検出された。ピットはいずれも柱穴と考えられ、とくにP4は南東側がオーバーハングするように掘り込まれていた。炉の埋土3層は焼土層であった。 **炭化材の出土状況および焼土検出状況**：本遺構の床面直上から多量の炭化材の出土と広範に焼土が確認された。調査期間の都合上、炭化材の検出状況に関する図面の作成はできなかったが、P1・P3で炭化した柱が確認され、さらに梁・桁の木材が焼けて崩れたような炭化材などが出土したことから、本遺構は上屋構造が残った状態で焼けたと考えられる。 **出土遺物点数**：縄文土器84点、弥生土器227点、奈良・平安時代土師器13点、奈良・平安時代須恵器18点 **出土遺物重量**：縄文土器575g、弥生土器1219g、奈良・平安時

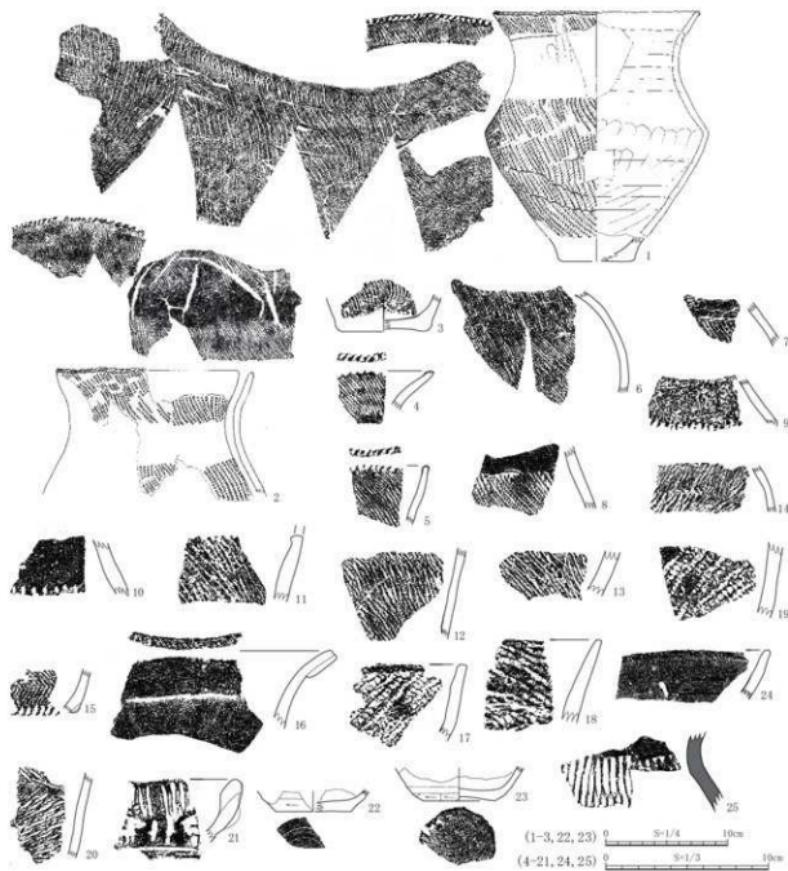
第1表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物 名	形式・時期 器種	遺物状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
1 弥生後期 焼	網・底部 遺存率70%	底径: 4.4 cm 遺存高: 10.5 cm	外面: 暗赤色(7.5VR6/6), 黒褐色 内面: 暗赤色(7.5VR6/6), 黑褐色	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし	未確認あり, 表面 深面直上によるとと思われる 倒落がれ跡跡			
2 弥生後期 焼	網・底部 遺存率30%	底径: 7.4 cm 遺存高: 7.4 cm	外面: 暗赤色(7.5VR6/6), 黑褐色 内面: 灰褐色(7.5VR5/2)	表面: 薄削り多条目 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: コグ付着				木製瓶あり
3 弥生後期 焼	網・底部 遺存率70%	底径: 5.0 cm 遺存高: 10.5 cm	外面: 明赤褐色(5VR6/6), 黑褐色 内面: 明赤褐色(5VR6/6), 黑褐色	表面: 薄削り多条目 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
4 弥生後期 焼	網・底部 遺存率20%	底径: 14.0 cm 遺存高: 6.6 cm	外面: 明赤褐色(5.5VR6/8), 黑褐色 内面: 灰褐色(7.5VR6/6), 黑褐色	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
5 弥生後期 灰陶	口縁～網部 遺存率40%	口径: 11.20 cm 底径: 4.1 cm	外面: 暗赤色(7.5VR6/6), 黑褐色 内面: 明黄褐色(10VR6/0)	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: R, 日向磨 内面: 灰褐色(7.5VR6/6), 黑褐色 内面: ハラナデ				1号竪穴建物跡出土 土器と構造関合
6 弥生後期 焼	網・底部 遺存率30%	底径: 10.0 cm 遺存高: 16.9 cm	外面: にら・黄褐色(10VR6/4), 暗褐色(5VR6/0) 内面: 灰褐色(7.5VR6/2)	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: スス付着 石英, 長石, 内面: なし				大粒の石英を多 量含む
7 弥生後期 焼	底部 遺存率40%	底径: 7.4 cm 遺存高: 2.7 cm	外面: 明赤褐色(5VR6/6) 内面: 明赤褐色(5VR6/6)	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: ヨケ付着				
8 弥生終末期 ～古墳中期前半 灰陶	脚部 遺存率70%	底径: 11.0 cm 遺存高: 5.6 cm	外面: 暗赤褐色(10VR6/6), 黑褐色 内面: 暗赤褐色(5.5VR6/6), 黑褐色	表面: ハラナデ, 2割1の 窓穴が3段位になる秀 ひれわれ 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
9 弥生後期 焼	口縁～脚部 破片	—	外面: 暗黄褐色(10VR6/2), 暗黄 褐色(7.5VR6/6) 内面: にら・暗褐色(7.5VR6/6), 黄褐色 (7.5VR6/2)	表面: 指捺, 口唇部に ハラナデによる押捺 内面: ハラナデ	角閃石, 内面: スス付着 石英, 長石, 内面: なし				
10 弥生後期 焼	口縁部 破片	—	外面: 灰褐色(7.5VR6/6), 相 似色(7.5VR6/6) 内面: にら・暗褐色(7.5VR6/6), 黑褐色 (7.5VR6/6)	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
11 弥生後期 焼	肩部 破片	—	外面: 暗黄褐色(10VR6/2) 内面: にら・青褐色(5VR5/3)	表面: 焼失 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				穢然によるとと思わ れる倒落がれ面内 に認められる
12 弥生後期 焼	肩部 破片	—	外面: 暗褐色(7.5VR7/6), 奈 良褐色(7.5VR6/6) 内面: 暗褐色(7.5VR6/6)	表面: 5字状結晶文 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				穢然によつて外 面の調整は判別つ けられ
13 弥生後期 焼	肩部 破片	—	外面: 灰褐色(7.5VR6/1) 内面: にら・暗褐色(7.5VR5/3), 暗褐色(7.5VR6/2)	表面: 3本足による脚部 鉢底文, R, H, L, 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: ヨケ付着				
14 弥生後期 焼	脚部 破片	—	外面: 暗黄褐色(10VR6/2), 黑褐色 内面: 暗褐色(7.5VR7/6)	表面: 薄削り多条目, 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: ヨケ付着				
15 弥生後期 焼	脚部 破片	—	外面: 明赤褐色(2.5VR5/6), 黑 褐色 内面: 明赤褐色(2.5VR5/6), 黑 褐色	表面: 薄削り多条目, 内面: 不明	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				内面は表面が知 りてないため, 調 整不明
16 弥生後期 焼	網・脚部 破片	—	外面: 明黄褐色(10VR6/6), 黑 褐色 内面: 暗褐色(7.5VR7/6), 黑褐色	表面: ハラナデ 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
17 弥生後期 焼	脚部 破片	—	外面: 灰褐色(10VR6/1) 内面: にら・黄褐色(10VR6/3), 暗褐色(7.5VR6/6)	表面: 1本足+R, H 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				内面の調整は表 面直上に接着して判別でき ず
18 弥生後期 焼	口縁部 破片	—	外面: 黑褐色(7.5VR6/1) 内面: 黑褐色(7.5VR6/1)	表面: ハラナデ, 口唇部に ハラナデ, 2割1の 窓穴が3段位組合せ 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
19 弥生後期 灰	口縁部 破片	—	外面: 黄褐色(7.5VR6/3) 内面: 黄褐色(7.5VR6/3)	表面: ハラナデ, 2割1の 窓穴が3段位組合せ 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
20 弥生後期灰半 灰	肩部 破片	—	外面: 暗褐色(7.5VR6/9) 内面: 暗褐色(7.5VR6/8)	表面: 5字状結晶文 内面: 5字状結晶文 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
21 弥生後期灰半 灰	頭部 破片	—	外面: 暗褐色(7.5VR6/6), 奈 良褐色(7.5VR7/6) 内面: 暗褐色(7.5VR7/6)	表面: 1本足+R, H 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				外側の一部が剥 離
22 弥生後期 ～中期前 灰陶	口縁部 破片	—	外面: 明黄褐色(7.5VR6/6), 奈 良褐色(7.5VR7/6) 内面: にら・黄褐色(10VR6/4)	表面: 1本足+R, H 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
23 黒面式 深鉢	口縁部 破片	—	外面: 奈良褐色(5VR4/6) 内面: 奈良褐色(5VR4/6)	表面: 半截竹筋による柔 軟 内面: ミガリ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
24 黒面式 深鉢	口縁部 破片	—	外面: 暗黄褐色(10VR6/2) 内面: 暗褐色(7.5VR7/6), 黑褐色 (10VR5/2)	表面: 薄削り多条目 直削平撹 RR 内面: ハラナデ, ガガ ンギヤツ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				深面直上
25 黒面式 深鉢	口縁部 破片	—	外面: 明黄褐色(10VR7/6), 黑 褐色 内面: 明黄褐色(10VR7/6), 黑褐色	表面: 薄削り多条目 直削平撹 RR 内面: ハラナデ	角閃石, 外面: なし 石英, 長石, 内面: なし				
26 弥生後期 燒	網・脚部 破片	遺存率40%	底径: 8.0 cm 高さ: 2.4 cm	外面: 明赤褐色(5.5VR5/6)	表面: 焼失, にじる剥離, 断 面 内面: なし				

代土器師 113g, 奈良・平安時代須恵器 166g 遺物出土状況: 342点の出土遺物のうち, 130点を測量で取り上げた。その結果, 遺物は床面直上から遺構確認面にかけてまんべんなく出土したことがわかる。本遺構出土でもっとも良好な形に復原された第6図1は床面直上から下層に

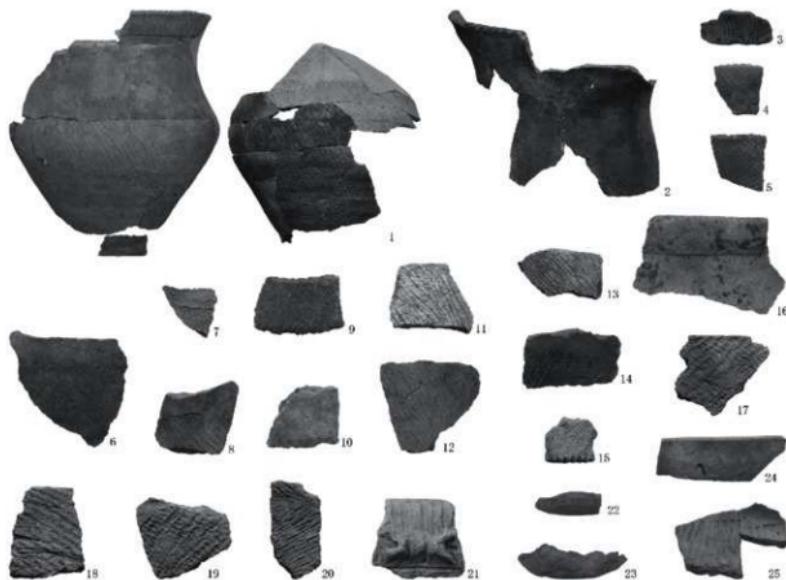


第5図 2号竪穴建物跡（1）



第6図 2号竪穴建物跡（2）

かけて主に出土し、上層からも破片が出土した。また、それらの破片は本遺構の南東側にやや集中しつつ、まばらな状態であったことから、投棄の際に土器はすでにバラバラの状態だったと考えられる。床面直上付近の遺物は炭化材や焼土が検出された高さと変わらないものもあるが、いずれの土器も破片か、あるいは第6図1のように遺構内に散らばったような状況で出土した。このことから、本遺構でヒトが生活している最中に失火により焼失したと考えるよりも、建物としての機能が失われた後に焼失し、機能が失われた後の焼失前後に土器は投棄されたと考えられる。一方、奈良・平安時代に位置づけられる第6図22～25は埋土上層あるいは遺構



第7図 2号竪穴建物跡（3）



第8図 遺構外出土遺物

確認面付近で出土しており、本遺構は奈良・平安時代になっても未だ埋まりきらず、そこに奈良・平安時代の人々が土器を投棄したと考えられる。 遺物：第6図1は複合口縁が扁平・幅広で、棒状浮文が剥がれた痕跡も確認できることから弥生時代後期末に位置づけられる。また、胴部の縄文帯には繩を結び合わせた端部がS字状に現れている。第6図11は大粒の石英を多量に含む胎土が特徴的であり、その他の弥生後期の甕の胎土とは特徴が異なる。第6図15は南関東系の受口状口縁壺である。第6図16は南関東系に見られる胴部に文様を欠き、しばしばスス・コゲが付着するような広口壺と考えられる。第6図17～20は縄文時代前期後半の黒浜式土器、21は縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器と考えられる。詳細な時期は不明だが、第6図22～24は奈良・平安時代の土師器壺と考えられる。第6図25は奈良・平安時代の下総でしばしば見られる橙色で焼きの悪い須恵器のタタキ甕である。

第2表 2号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器									
遺物 No.	型式等 器種	遺存状態	寸法	色調	文様・形態・調整等	胎土	スス・コダ	出土層位	備考
1	弥生後期 甕	口縁～底部 遺存率70%	径:(17.0)cm 底:(G.2)cm 推定高:20.4cm	外面:褐色(2.5YR6/6),灰褐色 (7.5YR6/2) 内面:赤褐色(2.5VR2/1),深褐色 (7.5YR1/1)	外面:口縁4cm。ハリナ子。 内面:口部に赤 のけらみ。指ナ ズ。指ナ ズ。指ナ ズ。	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:コダ付着	床面直上 埋土	口縁部に移動浮 文を貼り付けた痕 跡あり
2	弥生後期 甕	口縁～胴部 遺存率40%	径:(15.0)cm 底:(0.7)cm 遺存高:10.7cm	外面:明黄褐色(10YR6/6),灰褐 色(7.5YR6/2) 内面:明黄色(10YR7/6),灰褐 色(7.5YR1/1)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:コダ付着	床面直上 埋土	
3	弥生後期 甕	底部 遺存率25%	径:(17.0)cm 底:(2.7)cm 遺存高:27.0cm	外面:灰褐色(2.5YR6/6),灰 褐色(7.5YR6/2) 内面:灰褐色(2.5YR6/6),灰 褐色(7.5YR6/2)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
4	弥生後期 甕	口縁部 破片	-	外面:灰褐色(2.5YR6/6),黑 褐色(7.5YR1/1) 内面:黄褐色(2.5Y5/4),黑褐色 (10YR3/3)	外面:直前段多柔和。 内面:口部に布目のある牛 字模様。指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:コダ付着	埋土	
5	弥生後期 甕	口縁部 破片	-	外面:灰褐色(7.5YR5/4) 内面:灰褐色(7.5YR5/4)	外面:直前段多柔和。 内面:口部に灰,紫によじ のけらみ。指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
6	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:黒褐色(7.5YR6/6) 内面:褐色(7.5YR6/6),黒褐色 (7.5YR6/6)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:なし	埋土	
7	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:褐色(7.5YR6/6) 内面:褐色(7.5YR6/6)	外面:5字状鉛筆文。直 前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
8	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:褐色(7.5YR6/6),灰褐色 (7.5YR1/1) 内面:褐色(7.5YR6/6)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
9	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:灰褐色(10YR4/2) 内面:黒褐色(10YR1/1)	外面:指ナズ。牛字模 具不真。指ナズ	石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	床面直上に土とむ けられた割部が外面 に認められる	
10	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:褐色(7.5YR6/6) 内面:灰褐色(7.5YR5/1)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
11	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:淡黃褐色(10YR8/4) 内面:暗褐色(10YR7/6)	外面:直, L. 内面:新剥により判別不 可。	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	大粒の石英を多 量含む
12	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:褐色(7.5YR6/6) 内面:黒褐色(7.5YR1/1)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:コダ付着	埋土	
13	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:灰褐色(7.5YR7/4) 内面:灰褐色(7.5YR8/4)	外面:直前段多柔和。 内面:不明	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	内部に漆面が現 れているため、調 査不明。人骨の 五互を多量含む
14	弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面:黒褐色(7.5YR5/1) 内面:褐色(7.5YR6/2)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:なし	埋土	
15	弥生後期後半 甕	口縁部 破片	-	外面:淡黃褐色(7.5YR8/6) 内面:褐色(7.5YR6/6)	外面:直, L. 内面:指ナズ。ミガキ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
16	弥生後期 広口甕	口縁～頸部 破片	-	外面:明黃褐色(10YR8/6), 黑褐 色(10YR6/6), 黑褐色 (10YR6/6)	外面:指ナズ 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:なし	埋熱によると思 われる剥落が背面 に認められる	
17	黑柄式 深鉢	口縁部 破片	-	外面:明赤褐色(7.5YR5/6), 灰褐色(7.5YR4/2), 黑褐色 (7.5YR5/6), 黑褐色 (7.5YR5/6)	外面: I.R. 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	鐵辦言わ
18	黑柄式 深鉢	口縁部 破片	-	外面:褐色(7.5YR6/6) 内面:褐色(7.5YR6/6)	外面:直前段多柔和。 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	鐵辦言わ
19	黑柄式 深鉢	口縁部 破片	-	外面:明赤褐色(7.5YR5/6) 内面:明赤褐色(7.5YR5/6)	外面: I.R. 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	鐵辦言わ
20	黑柄式 深鉢	口縁部 破片	-	外面:灰褐色(7.5YR5/6) 内面:灰褐色(7.5YR5/6)	外面:直前段半拂手。 内面:指ナズ。ミガキ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	鐵辦言わ
21	五互ヶ台式 深鉢	口縁部 破片	-	外面:淡黃褐色(10YR8/4) 内面:灰褐色(7.5YR7/4)	外面:沈縫, 隆帶 内面:指ナズ。ミガキ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
22	直口 平安 土師器	胴部 破片	径:(8.2)cm 底:(8.0)cm 遺存率20%	外面:褐色(7.5YR7/6) 内面:褐色(7.5YR7/6)	外面:ロカリギ, 同輪 ヘタケズ, 同輪 ヘタケズ, 同輪ヘタ ケズ, 同輪ヘタケズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
23	直口 平安 土師器	胴部 破片	径:(6.1)cm 底:(6.0)cm 遺存率:20%	外面:褐色(7.5YR7/6) 内面:褐色(7.5YR7/6)	外面:ロカリギ, 同輪 ヘタケズ, 同輪ヘタ ケズ, 同輪ヘタケズ	角閃石 石英, 長石	外面:スス付着 石英, 長石 内面:コダ付着	床面直上に思 われる剥落が背面 に認められる	
24	直口 平安 土師器	胴部 破片	-	外面:褐色(7.5YR7/6), 褐色 (2.5YR6/8) 内面:褐色(7.5YR7/6)	外面:ロカリギ, 同輪 ヘタケズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	
25	直口 平安 土師器	胴部 破片	-	外面:明赤褐色(7.5YR5/6) 内面:明赤褐色(7.5YR5/6)	外面: I.R., 指ナズ 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	埋土	包含層

第3表 遺構外出土遺物観察表

土器									
遺物 No.	型式等 器種	遺存状態	寸法	色調	文様・形態・調整等	胎土	スス・コダ	出土層位	備考
1	五互ヶ台式 深鉢	胴部 破片	-	外面:灰褐色(7.5YR5/2) 内面:灰褐色(7.5YR5/2), 明赤褐色 (7.5YR4/6)	外面:隆帶, 沈縫 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	1号竪穴 建物跡の 埋土	
2	加曾利式 深鉢	胴部 破片	-	外面:明赤褐色(7.5YR5/6) 内面:明赤褐色(7.5YR5/6)	外面: I.R., 指ナズ 内面:指ナズ	角閃石 石英, 長石	外面:なし 石英, 長石 内面:なし	包含層	

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし おおやまいせきでいーちでん							
書名	千葉県八千代市 大山遺跡d地点							
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	轟 直行							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138番地2 TEL 047(483)1151 代表							
発行年月日	西暦2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
おおやまいせきでいーちでん 大山遺跡d地点	ふなじかねぎおやま 米本字大山	2380 番 53, 54, 55の各一部, 2380 番 26, 93, 94	12221	35度 45分 30秒	140度 06分 57秒	2018. 9.13 ~ 2018.10.12	172m ² (上層)	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大山遺跡d地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 弥生時代 奈良時代 平安時代	弥生時代後期 堅穴建物跡2棟	縄文土器、弥生土器、弥生時代土製品、奈良・平安時代土師器・須恵器	
要約			今回の調査では865点の土器、そして1点の土製品が出土し、それぞれの重量は5.368 kg, 0.04 kgであった。内訳は縄文土器が265点で2.155 kg、弥生土器が563点で2.893 kg、弥生時代土製品が1点で0.04 kg、奈良・平安時代土師器が18点で0.15 kg、奈良・平安時代須恵器が19点で0.17 kgとなる。	遺構としては弥生時代後期に位置づけられる堅穴建物跡が2棟検出され、とくに2号堅穴建物跡は炭化材の検出状況から焼失建物跡と考えられる。確認調査時にこれらの遺構よりも北側に堅穴建物跡は検出されなかつたこと、そして、本調査区の南側に接するa地点で弥生時代後期の堅穴建物跡が複数確認されたことから、今回の調査で本遺跡における弥生時代後期集落の北限が明らかになった可能性がある。	

千葉県八千代市 大山遺跡 d 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発 行 日 平成31年3月29日

編 集 八千代市教育委員会 教育総務課

〒 276-0045 八千代市大和田 138-2

T E L 047-483-1151(代表)

発 行 神正株式会社

印 刷 金子印刷企画